

原議保存期間	1年(令和9年3月31日まで)
有効期間	二種(令和9年3月31日まで)

警視庁交通部長 殿
各道府県警察本部長
(参考送付先)
各管区警察局広域調整担当部長
警察大学校交通教養部長

警察庁丁交企発第13号、丁規発第20号
令和8年1月30日
警察庁交通局交通企画課長
警察庁交通局交通規制課長

市区町村における生活道路の交通安全対策の推進に資する取組の実施について（通達）

生活道路における交通安全対策について、行政機関が行う政策の評価に関する法律（平成13年法律第86号）に基づき、総務省が政策評価を実施し、令和7年6月27日付けで、総務大臣から国家公安委員会委員長に対して、意見が通知された（別添1）。

これを踏まえ、市区町村が、生活道路において交通事故の発生箇所や交通事故リスクが高い箇所を把握した上で必要な交通安全施設等を整備することができるよう、市区町村による対策の推進に資する取組を実施する必要がある。

このため、都道府県ごとに設置されている道路交通環境安全推進連絡会議や市区町村が参加している会議を活用して、警察庁が公表する交通事故統計情報や都道府県警察が発信している交通事故分析結果の活用を促すとともに、市区町村からの意見・要望を聴取し、積極的に市区町村が必要とする情報の提供に努めること。

また、警察においては、これまでも、「総合的な交通事故分析の推進について（通達）」（令和7年3月27日付け警察庁丙交企発第37号ほか）に基づき、交通事故分析結果について、交通事故内容等を表示した独自の地図データを公開するなど、具体的かつ分かりやすい資料を作成し、積極的にウェブサイト等を用いた情報発信に努めてきたところであるが、上記の会議等で得た情報も参考に同資料が市区町村において活用されることを念頭に、その内容の充実に向けた検討を行うこと。

さらに、市区町村から都道府県警察が把握した事故リスクが高い箇所や必要な安全対策、事故に関する統計情報等について個別に提供に係る要望を受けた場合には、個人情報の保護や捜査情報の流出防止に十分配慮しつつ、必要なデータの提供を行うよう努めること。

なお、当庁及び国土交通省において、本政策評価を踏まえ、「オープンデータを用いた交通事故発生箇所の地図化マニュアル」（別添2）を作成し、ウェブサイトにおいて公表しているため、執務の参考とするとともに、各都道府県警察においても同マニュアルの活用を図るよう市区町村に対して周知を行うようにされたい。

生活道路における交通安全対策に関する政策評価の結果及び意見

「交通安全基本計画」（令和3年3月29日中央交通安全対策会議決定）では、生活道路における交通安全施設及び法定外表示（以下「施設」という。）の整備について、交通事故（以下「事故」という。）の多いエリアなどで効果的・効率的な対策を講ずること、ビッグデータを活用して潜在的高リスク箇所を解消することなどが挙げられている。

当省の評価結果では、市区町村では住民要望や通学路合同点検で把握した危険箇所の施設整備を検討することが基本となっており、事故発生箇所や事故リスクが高い箇所を踏まえた整備を基本とするという市区町村は少数となっていた。整備する施設の内容についても、事故実績や内容を把握せずに、現場の道路・交通環境を踏まえ担当職員の経験に基づき決定することを基本とするという市区町村が多かった。

こうした状況を踏まえると、国土交通省及び警察庁は、生活道路における交通安全対策を更に推進する観点から、次のような取組を行うことが望まれる。

これにより、市区町村が各種データを活用して、事故の発生箇所や内容を把握した上で施設を整備する取組が推進されることにより、事故の減少につながることを期待される。

① 国土交通省

- i 市区町村が施設を整備するに当たっては、事故実績や内容を把握した上で、整備箇所の選定や施設内容の決定を行うことが有効であることを周知・啓発すること。

また、上記の事故実績等の把握に当たり、市区町村が円滑に警察庁の交通事故統計情報のオープンデータ（以下「OD」という。）を活用できるよう、データを地図化する方法を示した手順書等の作成や研修に取り組むこと。

- ii ODやETC2.0加工情報等の各種データを活用して事故多発箇所や潜在的高リスク箇所の把握に努めるよう市区町村に働きかけるとともに、これらの箇所を把握して施設整備に取り組んでいる事例を紹介すること等により、市区町村における当該取組を推進すること。あわせて、ETC2.0加工情報は、ゾーン対策以外にも活用できることを市区町村に周知すること。
- iii 市区町村が行う施設整備の内容の検討に資するよう、事故内容を踏まえて施設整備を行った事例を取りまとめて研修等で紹介するなど情報提供に取り組む

こと。また、施設整備に関する研修を実施するに当たっては、ウェブ開催により市区町村からの参加者を増加させるなど、その充実に取り組むこと。

② 警察庁

- i 国土交通省によるODを地図化する方法等を示した手順書等の作成や研修の取組に対し協力を行うこと。

また、都道府県警察が公表している交通事故マップが市区町村による交通安全対策の検討に資するものとなるよう、当該マップに関し都道府県警察が市区町村の意見の把握に努めるなどの取組を推進すること。

- ii 都道府県警察が把握した事故リスクが高い箇所や必要な安全対策について、市区町村に情報提供を行っている都道府県警察の事例も踏まえ、交通状況等に応じ、市区町村の要望も勘案しながら、市区町村に必要な情報を提供するよう都道府県警察に対し指導すること。
- iii 国土交通省が行う、市区町村による施設整備内容の検討に資するための事例の取りまとめや研修の充実の取組について、協力を行うこと。
- iv 市区町村が行う施設整備の内容の検討に資するよう、事故内容に関するODの情報の充実等について検討すること。

また、市区町村から要望がある場合には事故に関する統計情報を都道府県警察が可能な範囲で提供するなど、協力を行うよう都道府県警察に対し指導すること。

オープンデータを用いた 交通事故発生箇所の地図化マニュアル

～オープンデータ取得から地図に表示するまで～

まずは、自分の街の交通事故発生箇所を地図に表示してみましよう。

Step. 1	警察庁HPから事故データをダウンロード	P. 3
Step. 2	緯度経度変換(60進法→10進法)・絞り込み(市区町村選択)	P. 4～
Step. 3	地理院マップシートに貼り付け	P. 11～
Step. 4	地図に表示	P. 14～

【応用編】項目情報(例:事故類型、事故内容)を地図に追加表示 P. 16～

令和7年7月

国土交通省道路局

警察庁交通局

【本資料の目的】

- 交通事故データ等を踏まえて交通安全対策を実施することは、効率的・効果的な交通安全対策の推進に有効です。
- 令和2年、交通事故統計情報のオープンデータが警察庁から公開され、事故データの活用が可能となっています。
- 一方で、「オープンデータの使い方が分からない」、「オープンデータを地図化するための余裕やスキルがない」などの地方公共団体の職員からの意見があります。
- 本資料は、地方公共団体の職員が円滑に警察庁オープンデータを活用できるように地図化の手順をまとめたものであり、本資料の活用により、効率的・効果的な交通安全対策が推進されることを目的に、国土交通省と警察庁で作成しております。

【警察庁のオープンデータ】

■データ項目

日時/ 事故類型/ 当事者種別/ 速度規制/
信号機/ 中央分離帯施設/ 歩道区分/ 地形

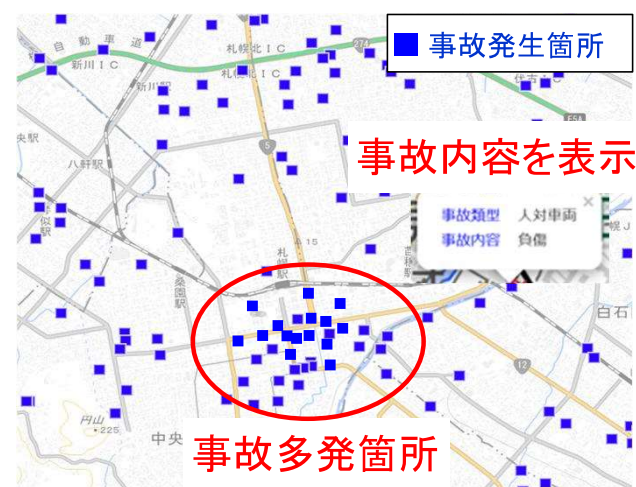
日時	2022/8/22 18:17
事故類型	車両相互
当事者種別 (当事者A) /年齢	乗用車 - 普通車/25
当事者種別 (当事者B) /年齢	乗用車 - 普通車/75
速度規制 (指定のみ) (当事者A)	30km/h以下
速度規制 (指定のみ) (当事者B)	40km/h以下
信号機	施設なし
中央分離帯施設等	中央分離なし
歩車道区分	区分あり - 縁石・ブロック等
地形	市街地 - 人口集中



地図化

【市区町村での活用イメージ】

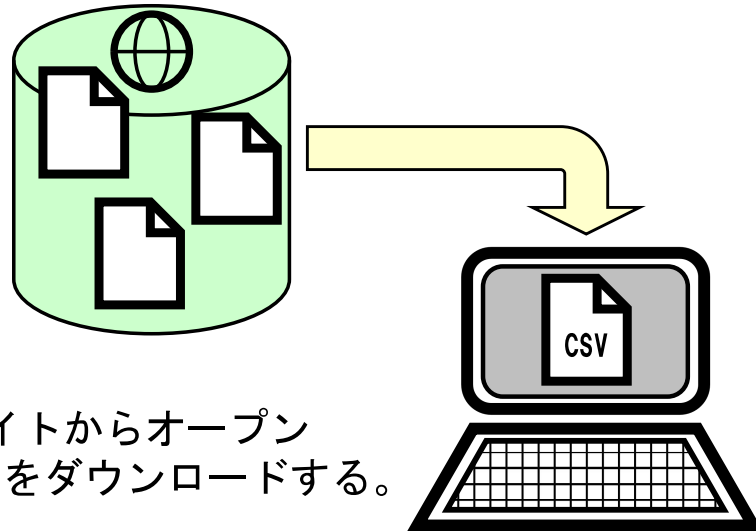
■事故の発生箇所や内容を踏まえた検討



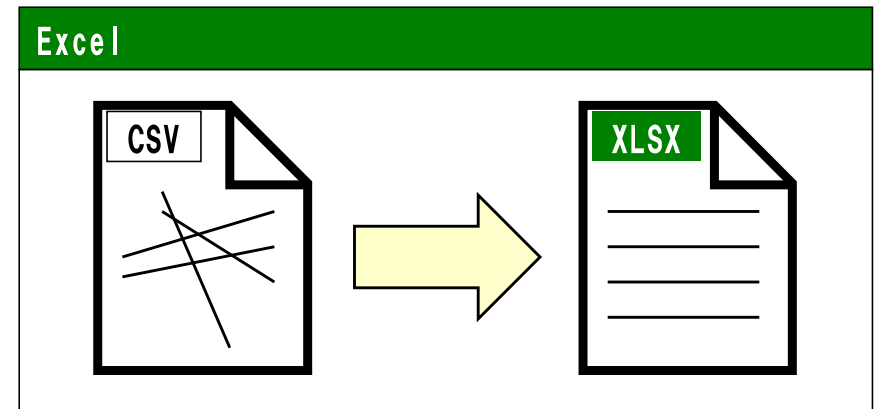
整備箇所の選定や施設内容の検討に活用

【本資料の構成】

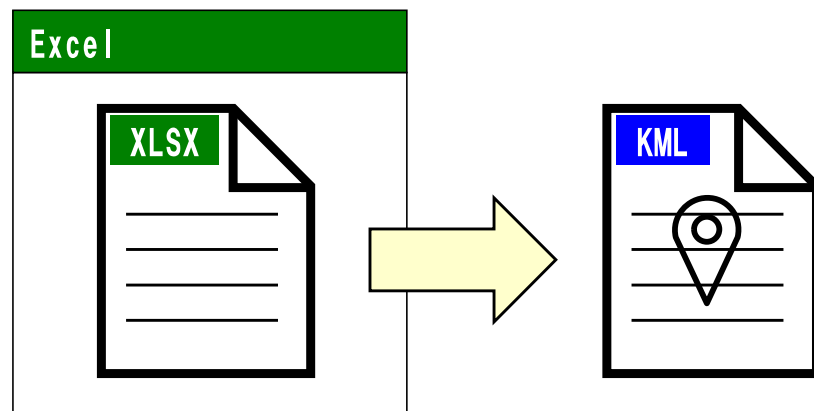
Step. 1 警察庁HPから事故データをダウンロード



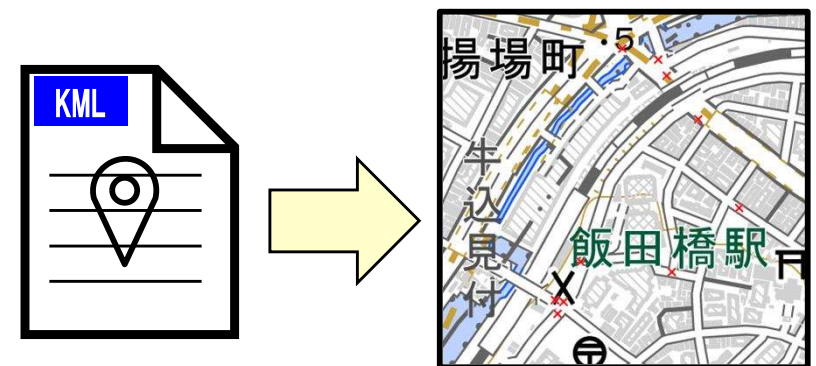
Step. 2 緯度経度変換(60進法→10進法)
・絞り込み(市区町村選択)



Step. 3 地理院マップシートに貼り付け



Step. 4 地図に表示



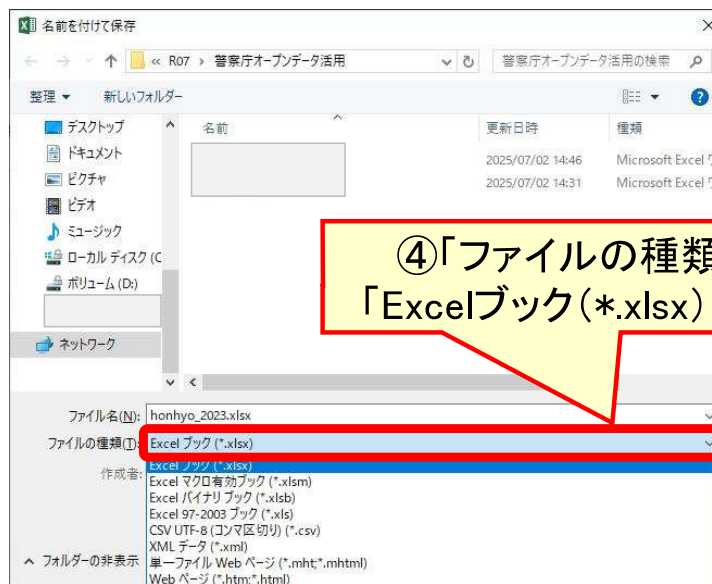
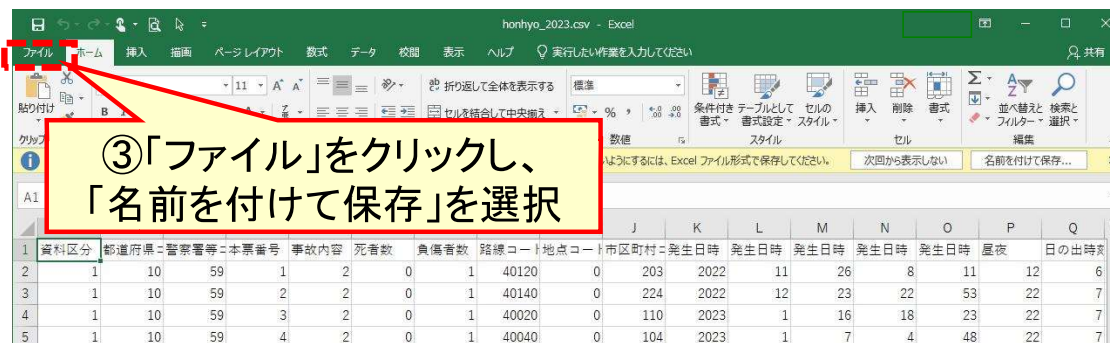
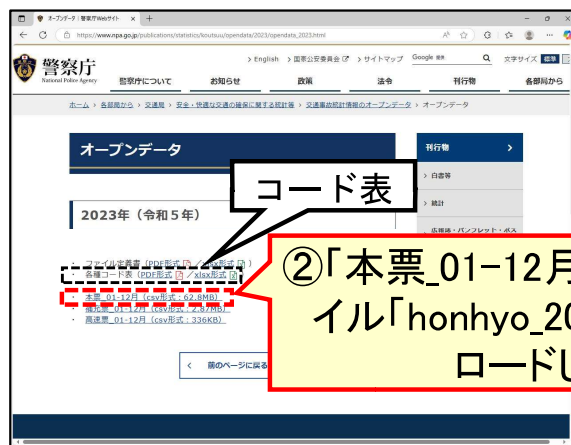
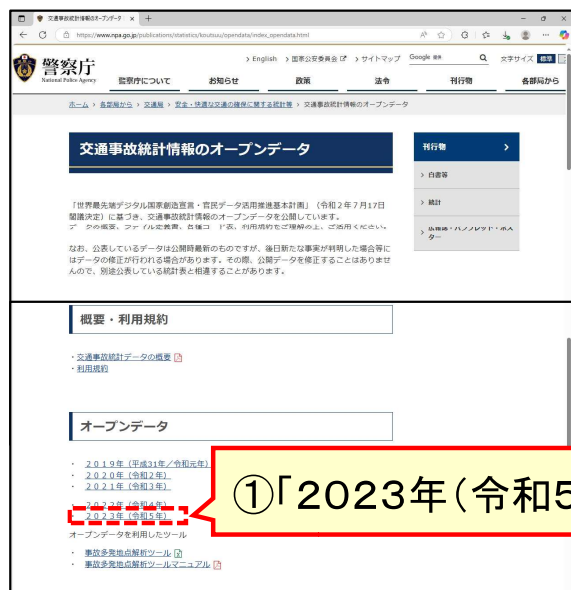
Step. 1 警察庁HPから事故データをダウンロード

警察庁のホームページから、交通事故統計情報のオープンデータ（CSVファイル）をダウンロードし、Excel形式(.xlsx)にして別ファイルとして保存します。

警察庁HP 交通事故統計情報のオープンデータ

ここでは、2023年のデータで説明します。

https://www.npa.go.jp/publications/statistics/koutsuu/opendata/index_opendata.html



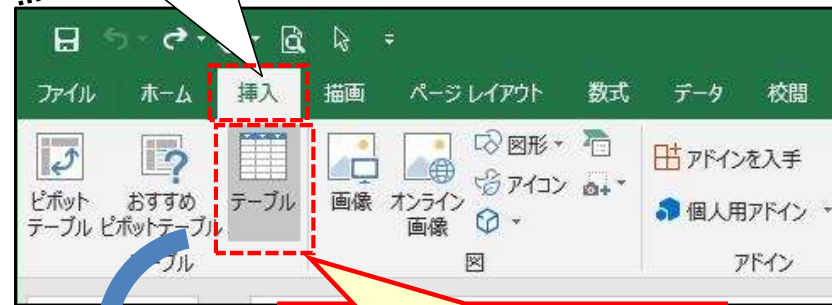
【注意】
古いExcel形式(.xls)では行数が足りなくなります。

Step. 2 緯度経度変換 (60進法→10進法)・絞り込み (市区町村選択) (1)

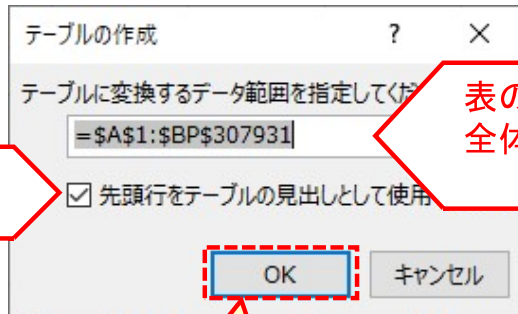
Excelのテーブル機能を適用します。

ここからは、「honhyo_2023.xlsx」を使います。

[挿入]タブの[テーブル]



①「テーブル」をクリック



チェックは ON

表のデータ部分
全体が指定されて
います

②「OK」をクリック

[テーブル]機能を使わなくても作業できますが、通常の表の状態やフィルターによる操作よりも便利です。

資料区分	都道府県	警察署等	本票番号	事故内容	死者数	負傷者数	路線コード	地点コード	市区町村	発生日時	発生日時	発生日時	発生日時	発生日時	発生日時	発生日時	発生日時	発生日時	発生日時
1	1	10	59	1	2	0	1	40120	0	203	2022	11	26	8	11	12	6		
3	1	10	59	2	2	0	1	40140	0	224	2022	12	23	22	53	22	7		
4	1	10	59	2	0	1	40020	0	110	2023	1	16	18	23	22	7			
5	1	10	59	4	2	0	1	40040	0	104	2023	1	7	4	48	22	7		
6	1	10	101	1	2	0	1	360	1000	101	2022	12	31	0	57	22	7		
7	1	10	101	2	2	0	1	99000	0	101	2022	11	25	13	55	12	6		
8	1	10	101	3	2	0	1	39990	0	101	2023	1	4	23	20	22	7		
9	1	10	101	4	2	0	1	39990	0	101	2022	11	25	6	45	11	6		
10	1	10	101	5	2	0	1	39990	0	101	2023	1	6	15	15	13	7		
11	1	10	101	6	2	0	1	39990	0	101	2023	1	5	14	5	12	7		
12	1	10	101	7	2	0	1	360	8	101	2023	1	5	17	55	22	7		
13	1	10	101	8	2	0	1	39990	0	101	2022	12	20	14	0	12	7		
14	1	10	101	9	2	0	1	99000	0	101	2023	1	12	18	23	22	7		
15	1	10	101	10	2	0	1	39990	0	101	2023	1	14	18	20	22	7		
16	1	10	101	11	2	0	1	99000	0	101	2023	1	16	11	10	12	7		

資料区分	都道府県コード	警察署等コード	本票番号	事故内容	死者数	負傷者数	路線コード	地点コード	市区町村コード	発生日時	年	発生日時	月
1	1	10	59	1	2	0	1	40120	0	203	2022	11	
3	1	10	59	2	2	0	1	40140	0	224	2022	12	
4	1	10	59	3	2	0	1	40020	0	110	2023	1	
5	1	10	59	4	2	0	1	40040	0	104	2023	1	
6	1	10	101	1	2	0	1	360	1000	101	2022	12	
7	1	10	101	2	2	0	1	99000	0	101	2022	11	
8	1	10	101	3	2	0	1	39990	0	101	2023	1	
9	1	10	101	4	2	0	1	39990	0	101	2022	11	
10	1	10	101	5	2	0	1	39990	0	101	2023	1	
11	1	10	101	6	2	0	1	39990	0	101	2023	1	
12	1	10	101	7	2	0	1	360	8	101	2023	1	
13	1	10	101	8	2	0	1	39990	0	101	2022	12	
14	1	10	101	9	2	0	1	99000	0	101	2023	1	
15	1	10	101	10	2	0	1	39990	0	101	2023	1	
16	1	10	101	11	2	0	1	99000	0	101	2023	1	

Step. 2 緯度経度変換 (60進法→10進法) ・絞り込み (市区町村選択) (2)

緯度・経度 (BI列・BJ列) の右側に2列挿入し、BK列とBL列に数式を入力します。

①「地点 経度(東経)」(BJ列)の右側に2列挿入する。

	BI	BJ	BK	BL	BM
地点	緯度 (北緯)	地点 経度 (東経)	曜日(発生年月日)	祝日(発生年月日)	認知機能検査経過日
0	431007628	1410328320	7	3	
0	425329066	1414708207	6	3	
2	425916107	1412814196	2	3	
4	430442097	1412526123	7	3	



	BI	BJ	BK	BL	BM
事者B)	地点 緯度 (北緯)	地点 経度 (東経)	列1	列2	日(発生年月日)
0	431007628	1410328320			
0	425329066	1414708207			
2	425916107	1412814196			
4	430442097	1412526123			



②BK2セルの数式バーに以下の数式を入力して、[enter]キーを押す。

	BI	BJ	BK	BL	BM	BN	BO
1	地点 緯度 (北緯)	地点 経度 (東経)	列1	列2	曜日(発生年月日)	祝日(発生年月日)	認知機能検査経過日数 (当事者A)
2	431007628	1410328320			7	3	9999
3	425329066	1414708207			6	3	9999
4	425916107	1412814196			2	3	9999
5	430442097	1412526123			7	3	9999

(BK列の数式)

$$=LEFT([@地点 緯度 (北緯)],2)+(MID([@地点 緯度 (北緯)],3,2)/60)+(MID([@地点 緯度 (北緯)],5,5)/3600000)$$



③BL2セルの数式バーに以下の数式を入力して、[enter]キーを押す。

	BI	BJ	BK	BL	BM	BN	BO
1	地点 緯度 (北緯)	地点 経度 (東経)	列1	列2	曜日(発生年月日)	祝日(発生年月日)	認知機能検査経過日数 (当事者A)
2	431007628	1410328320	43.16878556		7	3	9999
3	425329066	1414708207	42.89140722		6	3	9999
4	425916107	1412814196	42.9878075		2	3	9999
5	430442097	1412526123	43.07836028		7	3	9999

(BL列の数式)

$$=LEFT([@地点 経度 (東経)],3)+(MID([@地点 経度 (東経)],4,2)/60)+(MID([@地点 経度 (東経)],6,5)/3600000)$$

数式をコピー&ペーストしたときに、
 [@地点■緯度(北緯)]
 [@地点■経度(東経)]
 の■のところの全角スペース (3カ所+3カ所)が抜け落ちる場合は、
 数式バーで全角スペースを手入力してください。

【参考】 [enter] キーを押しても他の行に展開されない場合

[enter]キーを押しても他の行に展開されない場合は、

	BI	BJ	BK	BL	BM
1	地点 緯度 (北緯) ▼	地点 経度 (東経) ▼	列1 ▼	列2 ▼	曜日 (発生年月)
2	431007628	1410328320	43.16878556		
3	425329066	1414708207			
4	425916107	1412814196			
5	430442097	1412526123			
6	430321284	1412117758			
7	430303533	1411944929			
8	430402006	1412146119			

左図のボタンを選択

または

セルを直接コピーして貼付け

	BI	BJ	BK	BL	BM
1	地点 緯度 (北緯) ▼	地点 経度 (東経) ▼	列1 ▼	列2 ▼	曜日 (発生年月)
2	431007628	1410328320	43.16878556		
3	425329066	1414708207			
4	425916107	1412814196			
5	430442097	1412526123			
6	430321284	1412117758			
7	430303533	1411944929			
8	430402006	1412146119			

【手順の例】

- ①BK2セルを選択して、コピー（[Ctrl]+[C]など）
- ②BK3セルを選択して、[Shift]を押したまま [Ctrl]+[↓]（残りのセルが選択される）
- ③貼り付け（[Ctrl]+[V]など）

	BI	BJ	BK	BL	BM
1	地点 緯度 (北緯) ▼	地点 経度 (東経) ▼	列1 ▼	列2 ▼	曜日 (発生年月)
2	431007628	1410328320	43.16878556		
3	425329066	1414708207	42.89140722		
4	425916107	1412814196	42.9878075		
5	430442097	1412526123	43.07836028		
6	430321284	1412117758	43.05591222		
7	430303533	1411944929	43.05098139		
8	430402006	1412146119	43.06722389		

Step. 2 緯度経度変換 (60進法→10進法) ・絞り込み (市区町村選択) (3)

都道府県コード (B列) と市区町村コード (J列) で、特定の市区町村のデータに絞り込みます。

ここでは、東京都千代田区 (都道府県コード : 30、市区町村コード : 101) の場合で説明します。

都道府県コード 次頁 市区町村コード 次頁

② 「市区町村コード」の▼ボタンをクリックし、「(すべて選択)」のチェックを外した上で、「101」(千代田区)にチェックを入れる。

① 「都道府県コード」の▼ボタンをクリックし、「(すべて選択)」のチェックを外した上で、「30」(東京都)にチェックを入れる。

千代田区
101

東京都 30

政令市は区単位で集計されています。

資料区分	都道府県コード	警察署等コード	本票番号	事故内容	死者数	負傷者数	路線コード	地点コード	市区町村コード	発生日時	年	
1	30	101	10	101	10	2	0	1	39990	0	101	2022
2	30	101	10	101	10	2	0	1	39990	0	101	2022
3	30	101	10	101	10	2	0	1	39990	0	101	2023
4	30	101	10	101	10	2	0	1	39990	0	101	2023
5	30	101	10	101	10	2	0	1	39990	0	101	2022
6	30	101	100	101	2	2	0	1	10110	0	101	2022

③ 東京都千代田区のデータが抽出される。

資料区分	都道府県コード	警察署等コード	本票番号	事故内容	死者数	負傷者数	路線コード	地点コード	市区町村コード	発生日時	年	発生日時	月
2014	30	101	0	0	0	0	0	0	101	0	2022	2022	1
2022	30	101	0	0	0	0	0	0	101	0	2022	2022	1
2036	30	101	0	0	0	0	0	0	101	0	2023	2023	1
2044	30	101	0	0	0	0	0	0	101	0	2023	2023	1
2059	30	101	0	0	0	0	0	0	101	0	2022	2022	1
2060	30	101	100	101	2	2	0	1	10110	0	2022	2022	1

【参考】都道府県コード・市区町村コードを確認する

「都道府県コード」は、本票を取得したページにある「各種コード表」から確認できます。

オープンデータ

刊行物

2023年 (令和5年)

①「各種コード表」(PDF形式)をダウンロードし、ファイルを開く。

本票

- ファイル定義書 (PDF形式)
- 各種コード表 (PDF形式)
- 本票_01-12月 (csv形式)
- 補充票_01-12月 (csv形式)
- 高速票_01-12月 (csv形式)

項目名 都道府県コード
適用 本票、補充票、高速票
説明 主に交通事故が発生した都道府県

コード	都道府県名
10	北海道 (札幌方面)
11	北海道 (函館方面)
12	北海道 (旭川方面)
13	北海道 (釧路方面)
14	北海道 (北見方面)
20	青森
21	岩手
22	宮城
23	秋田
24	山形
25	福島
30	東京

北海道の方面区分は、北海道警察のHPで確認できます。
<https://www.police.pref.hokkaido.lg.jp/intro/tokuosi/syozai/syozai.html>

②2ページを開いて、該当する番号を「都道府県コード」とする。

都道府県コードは、【付録】(次ページ)にも掲載しています。

「市区町村コード」は、「総務省の統計に用いる標準地域コード」から確認できます。
(総務省HP https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/9-5.htm)

総務省
Ministry of Internal Affairs and Communications

統計に用いる標準地域コード

①該当する都道府県のファイルをダウンロードし、ファイルを開く。

(PDF形式)

- 01 北海道～10 群馬県(99.8KB)
- 11 埼玉県～20 長野県(194KB)
- 21 岐阜県～30 和歌山県(341KB)
- 31 鳥取県～40 福岡県(327KB)
- 41 佐賀県～47 沖縄県(145KB)

(CSV形式) 全国(CSV:104KB)

市区町村及び郡・支庁・振興局等の区域を示すコード

01 北海道

220 士別市 しべつし
221 名寄市 なよろし
222 三笠市 みかさし
223 根室市 ねむろし
224 千歳市 ちとせし
225 滝川市 たきかわし
226 砂川市 すなかわし
227 歌志内市 うたしなしいし
228 深川市 ふかかわし
229 富良野市 ふらのし
230 登別市 のほりべつし
231 恵庭市 えにわし

②該当する番号を「市区町村コード」とする。

【付録】都道府県コード

コード	都道府県名	コード	都道府県名	コード	都道府県名	コード	都道府県名	コード	都道府県名
10	北海道 (札幌方面)	30	東京	50	富山	70	鳥取	90	福岡
11	北海道 (函館方面)	40	茨城	51	石川	71	島根	91	佐賀
12	北海道 (旭川方面)	41	栃木	52	福井	72	岡山	92	長崎
13	北海道 (釧路方面)	42	群馬	53	岐阜	73	広島	93	熊本
14	北海道 (北見方面)	43	埼玉	54	愛知	74	山口	94	大分
20	青森	44	千葉	55	三重	80	徳島	95	宮崎
21	岩手	45	神奈川	60	滋賀	81	香川	96	鹿児島
22	宮城	46	新潟	61	京都	82	愛媛	97	沖縄
23	秋田	47	山梨	62	大阪	83	高知		
24	山形	48	長野	63	兵庫				
25	福島	49	静岡	64	奈良				
				65	和歌山				

【参考】道路種別・車道幅員で絞り込む（生活道路のデータを抽出する）

「路線コード」をもとに、特定の道路種別（市町村道）のデータに絞り込むこともできます。

Copilot に質問

項目名	路線コード
適用	本票
説明	交通事故が発生した道路をいう。「バイパス」とは、当初から供用されている区間とは別に、新たに道路の供用がなされているバイパス部分（路線コードが異なる部分は除く。）をいう。

コード(上4桁)	路線名	コード(下1桁)	区分
0001~0999	一般国道(国道番号)	0	現道区間又は包括路線
1000~1499	主要地方道—都道府県道	1~9	バイパス区間
1500~1999	主要地方道—市道		
2000~2999	一般都道府県道		
3000~3999	一般市町村道		
4000~4999	高速自動車専用道路		
5000~5499	自動車専用道路		
5500~5999	自動車専用道路		
6000~6999	道路運送		
7000			
8000			
8500			
9000			
99			

「路線コード」は全5桁であり、「一般市町村道」は上4桁が「3000~3999」（すなわち、5桁で3万番台）であるものが該当する。

「路線コード」(H列)の▼ボタンをクリックし、「(すべて選択)」のチェックを外した上で、3万番台であるものにチェックを入れる。

「車道幅員」をもとに、特定の車道幅員（5.5m未満）のデータに絞り込むこともできます。

Copilot に質問

単路・交差点として、以下が該当する。(2023年の場合)

「01: 単路-3.5m未満」
 「02: 単路-3.5m以上」
 「11: 交差点-小(5.5m未満)-小」
 「14: 交差点-中(5.5m以上)-小」
 「17: 交差点-大(13.0m以上)-小」

コード	区分	備考
01	単路-3.5m未満	車道幅員が3.5m未満の単路をいう。
02	単路-3.5m以上	車道幅員が3.5m以上5.5m未満の単路をいう。
03	単路-5.5m以上	車道幅員が5.5m以上9.0m未満の単路をいう。
04	単路-9.0m以上	車道幅員が9.0m以上13.0m未満の単路をいう。
05	単路-13.0m以上	車道幅員が13.0m以上19.5m未満の単路をいう。
06	単路-19.5m以上	車道幅員が19.5m以上の単路をいう。
11	交差点-小(5.5m未満)-小	車道幅員が5.5m未満と5.5m未満の交差点をいう。
14	交差点-中(5.5m以上)-小	車道幅員が5.5m以上13.0m未満と5.5m未満の交差点をいう。
15	交差点-中(5.5m以上)-中	車道幅員が5.5m以上13.0m未満と5.5m以上13.0m未満の交差点をいう。
17	交差点-大(13.0m以上)-小	車道幅員が13.0m以上と5.5m未満の交差点をいう。
18	交差点-大(13.0m以上)-中	車道幅員が13.0m以上と5.5m以上13.0m未満の交差点をいう。
19	交差点-大(13.0m以上)-大	車道幅員が13.0m以上と13.0m以上の交差点をいう。
00	一般交通の場所	上記以外の道路で、不特定多数の人や車両が自由に通行できる場所として供され、現に不特定多数の人や車両が自由に通行している場所をいう。

「車道幅員」(AD列)の▼ボタンをクリックし、「(すべて選択)」のチェックを外した上で、「1」「2」「11」「14」「17」にチェックを入れる。

Step.3 地理院マップシートに貼り付け(1)

国土地理院HPから「地理院マップシート」をダウンロードします。

地理院マップシート

https://renkei2.gsi.go.jp/renkei/130326mapsh_gijutu/index.html

①「地理院マップシート(Ver.2.0.0.4)」ダウンロードファイル」(ZIPファイル)をクリックし、ダウンロードして解凍する。 ※

②「地理院マップシート_20240716.xls」を開く。

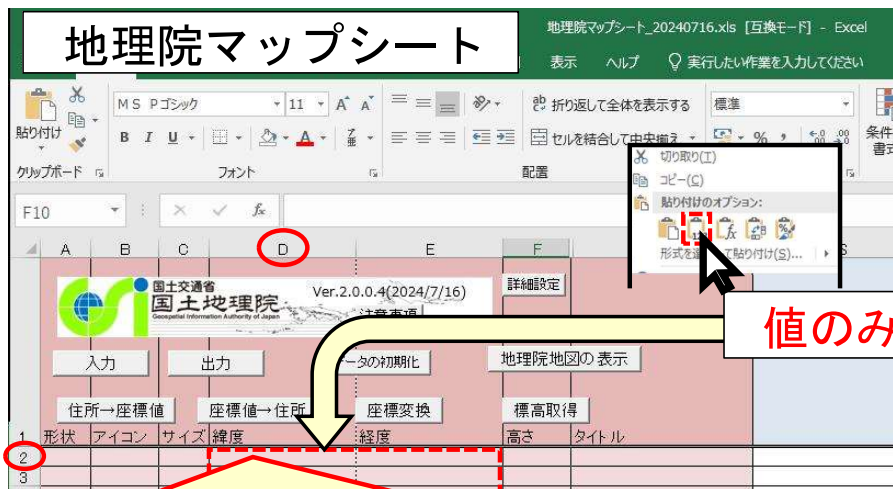
※ 「地理院マップシート」は、Excelマクロが含まれているため、ネットワーク環境（セキュリティ設定）によっては、正常にダウンロードできない場合があります。その場合は、ネットワーク担当部署に相談するなどのご対応をお願いします。

(このメッセージが出るときは、「コンテンツの有効化」を行う。)

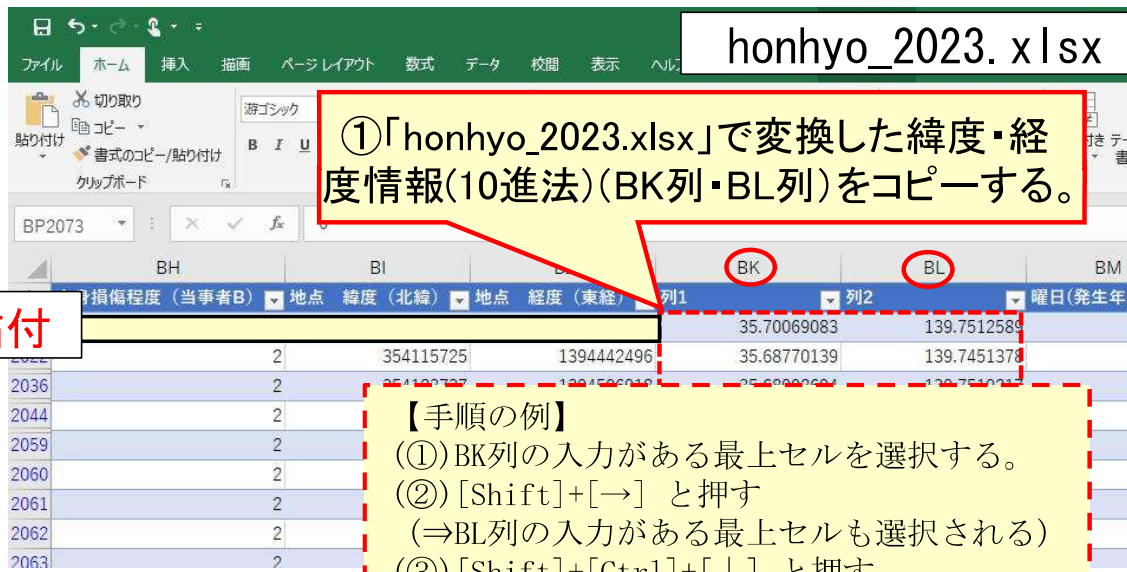
セキュリティの警告 一部のアクティブ コンテンツが無効にされました。クリックすると詳細が表示されます。 **コンテンツの有効化**

Step. 3 地理院マップシートに貼り付け（2）

「地理院マップシート」ファイルに、変換した緯度・経度情報(10進法)を貼り付け、地図に表示する「形状」・「アイコン」・「サイズ」を指定します。

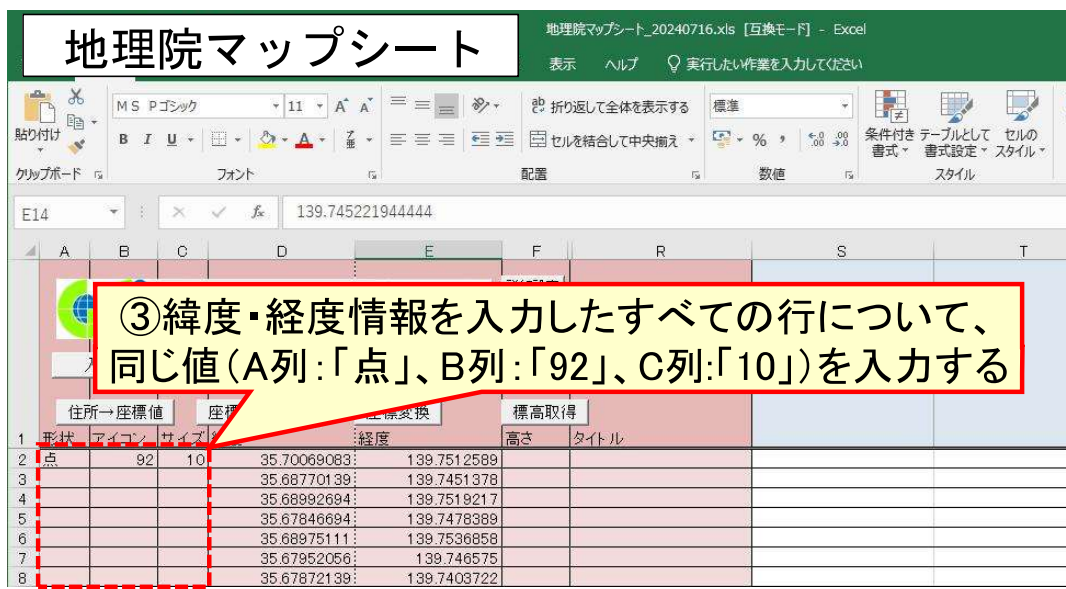


②「地理院マップシート_20240716.xls」のD2セルで右クリックし、「貼り付けのオプション」で「値」を選択する。



①「honhyo_2023.xlsx」で変換した緯度・経度情報(10進法)(BK列・BL列)をコピーする。

【手順の例】
 (①) BK列の入力がある最上セルを選択する。
 (②) [Shift]+[→] と押す
 (⇒BL列の入力がある最上セルも選択される)
 (③) [Shift]+[Ctrl]+[↓] と押す。
 (⇒必要部分が選択される)
 (④) コピーする。 ([Ctrl]+[C] など)



③緯度・経度情報を入力したすべての行について、同じ値(A列:「点」、B列:「92」、C列:「10」)を入力する

【手順の例】
 (①) A2セルでプルダウンから「点」を選択する。
 (②) B2セルをダブルクリックし、赤い× (92番) を選択する。
 (③) C2セルに「10」を入力する。
 (④) A2～C2セルを選択し、コピーする。
 ([Ctrl]+[C] など)
 (⑤) D3セルを選択する。
 (⑥) [Ctrl]+[↓] と押す。
 (⇒入力がある最下行に移動する)
 (⑦) 入力がある最下行のA～C列セルを選択し、
 [Shift]+[Ctrl]+[↑] と押す。
 (⇒A2セル～C列入力最下行が選択される)
 (⑧) 貼付ける。 ([Ctrl]+[V] など)



Step.3 地理院マップシートに貼り付け(3)

地図表示用ファイルを出力します。

[出力]ボタンを押して、ファイル形式を選択すると、出力が始まる。
(保存先、ファイル名の確認がある。)

①「出力」ボタンをクリックする。

②「KMLファイル」ボタンをクリックする。
※マウスカーソルがビジー状態(砂時計、輪など)でなくなれば完了

地理院地図は、KMLファイルとGeoJSONの両方に対応。

形状	アイコン	サイズ	緯度	経度	高さ	タイトル
点		92	35.70069083	139.7512589		
点		92	35.68770139	139.7451378		
点		92	35.68992694	139.7519217		
点		92	35.67846694	139.7498389		
点		92	35.67952056	139.746575		
点		92	35.67872139	139.7403722		
点		92	35.68370889	139.7438622		
点		92	35.68400861	139.7372066		
点		92	35.68685583	139.75228		
点		92	35.68329972	139.7440747		
点		92	35.68386861	139.7360231		
点		92	35.70236639	139.7452219		
点		92	35.67750583	139.7493567		
点		92	35.68515722	139.7487275		
点		92	35.67692806	139.7558664		
点		92	35.67677806	139.7555658		
点		92	35.67333833	139.7577153		
点		92	35.68634667	139.7661953		
点		92	35.67695278	139.7555867		
点		92	35.66878583	139.7578933		
点		92	35.6738475	139.7612722		
点		92	35.68244167	139.7656214		
点		92	35.67079694	139.7499372		

【応用編】S列以降に項目(例:事故類型、事故内容)の情報を入力することで、項目情報を地図に色分けやポップアップで表示できます。(P.16~P.20参照)

③「KMLファイル」がフォルダに出力される。

②の後、「実行時エラー「1004:」アプリケーション定義またはオブジェクト定義のエラーです。」の画面が表示される場合は、「形状」「アイコン」「サイズ」(A~C列)で、「緯度」「経度」(D~E列)の入力がある最下行よりも下に誤って入力していないかご確認ください。

地図表示用ファイルの準備ができました。

Step.4 地図に表示(1)

地理院地図にアクセスし、作成した地図表示用ファイルを読み込ませます。

地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp/>



Step.4 地図に表示(2)

地理院地図に交通事故発生箇所が表示されます。

飯田橋駅前の交差点で、2023年に3件の事故が発生していることがわかる。

2023年の東京都千代田区の交通事故が、赤い×印で表示される。

作図・ファイル

- 新規作図情報 0 編集 削除
- アイコンのラベルを表示 大 中 小
- gsimap20250704160337.kml 655 編集 削除
- アイコンのラベルを表示 大 中 小

標高 (全国標高改定以前の値) : 19.6m (データソース: DEM5A)

表示値の説明

地図表示はこれで完了です。

ブラウザを閉じた後、再度地図に表示するには、
P.13の③で保存されたKMLファイルを、P.14のとおり地理院地図に再度読み込んでください。

【応用編】

項目情報(例:事故類型、事故内容)を地図に追加表示

交通事故発生箇所の位置を地図に表示(プロット)するだけでなく、交通事故の項目情報(例:事故類型、事故内容)を色分けやポップアップで表示できます。

【応用編】項目情報を区別（色分け）して地図に表示（1）

Step.3 (2) [P.10]において、緯度・経度情報を貼り付けたときに、他の項目（コード）の情報も貼り付けて、「アイコン」をコードごとに設定すると、項目情報を区別（色分け）して表示できます。

ここでは、「事故類型」で説明します。

コード	区分	備考
01	人対車両	交通事故関係者(当事者A、当事者B)の一方が歩行者である交通事故(列車が相手方である車を除く)の類型をいう。
21	車両相互	交通事故関係者(当事者A、当事者B)がいずれも車両等である交通事故(列車が相手方である車を除く)の類型をいう。
41	車両単独	交通事故関係者(当事者A、当事者B)の一方が物種、軽車両(運転者不在)又は相手方なしである交通事故の類型をいう。

①「各種コード表」(P.7を参照)で、58ページを開いて、「事故類型」のコードを確認する。

※ここでは、色分けを以下のとおりとする。

コード	区分	記号(例)
1	人対車両	▲ 101
21	車両相互	■ 85
41	車両単独	● 78

地理院マップシート

②「アイコン」(B列)を空けておく。

④S1セルで右クリックし、値のみ貼り付ける。

AH	AI	AJ	AK	AL
中央分離帯施設等	非車道区分	事故類型	年齢(当事者A)	年齢(当事者B)
2044	1	21	25	1
2059	1	21	45	25
2060	1	21	45	45
20354	1	21	45	35
20356	1	21	35	35
20357	5	21	55	45
20358	4	21	55	35
20359	5	21	35	25
20360	4	21	25	65
20361	1	21	45	25
20362	1	21	35	55

③「honhyo_2023.xlsx」の「事故類型」(AJ列)で、1行目から最下行の全てのセルを選択する

⑤1行目にフィルター機能を適用する。

⑥「事故類型」(S列)のフィルターで、「1」(人対車両)を選択する。

⑦「アイコン」(B列)で、「101」(赤い三角)を入力する。

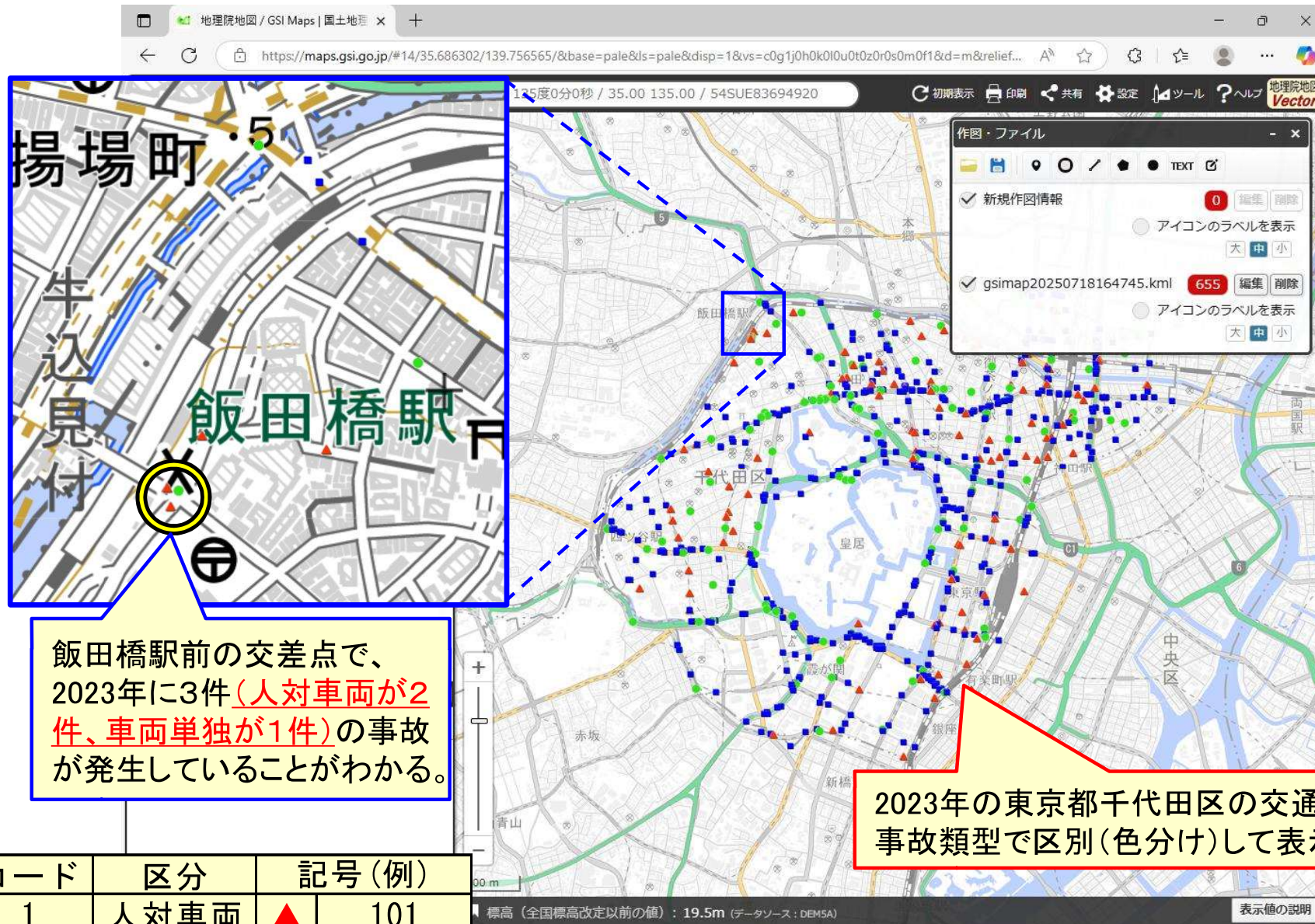
⑧(⑥~⑦)と同様に、「21」(車両相互)で「85」(青い四角)を、「41」(車両単独)で「78」(緑の丸)を入力する。

⑨「事故類型」(S列)のフィルターで、「事故類型」からフィルターをクリアを選択する。

⑩地図表示用ファイルを出し(P.11参照)、地理院地図に地図表示用ファイルを読み込ませる(P.12参照)。

【応用編】項目情報を区別（色分け）して地図に表示（2）

項目情報をアイコンで区別（色分け）した交通事故発生箇所が表示されます。



【応用編】項目情報をポップアップで地図に表示（1）

Step.3 (2) [P.10]において、緯度・経度情報を貼り付けたときに、他の項目（コード）の情報も貼り付けて、コード（番号）を区分（文字）に変換すると、項目の情報を地図上で確認できます。

ここでは、「事故類型」「事故内容」で説明します。

https://www.npa.go.jp/publications/statistics/koutsuu/pendata/2023/codebook_2023.pdf

項目名	事故類型	区分	備考
01	人対車両	01	交通事故関係者(当事者A、当事者B)の一方が歩行者である交通事故(列車が相手方である場合を除く。)
21	車両相互	01	交通事故関係者(当事者A、当事者B)がいずれも車両等である交通事故(列車が相手方である場合を除く。)
41	車両単独	01	交通事故関係者(当事者A、当事者B)の一方が物、軽車両(運転者不在)又は相手方である交通事故の類型をいう。
61	列車	01	列車が交通事故関係者となる交通事故の類型をいう。

地理院マップシート

値のみ貼付

AH	AI	AJ	事故類型	事故内容
1	中央分離帯施設等	非車道区分		
2044	1	3		
2059	1	3		
2060	1	3		
80354	1	2		
80356	1	2		
80357	5	2		
80358	4	1		
80359	5	2		

①「各種コード表」(P.7を参照)において、58ページで「事故類型」のコードを、22ページで「事故内容」のコードを確認する。

(事故類型)

コード	区分
01	人対車両
21	車両相互
41	車両単独
61	列車

(事故内容)

コード	区分
1	死亡
2	負傷

②「honhyo_2023.xlsx」の「事故類型」(AJ列)、「事故内容」(E列)を、「地理院マップシート」のS列、T列にそれぞれコピー(値のみ貼付)する。

③1行目にフィルター機能を適用する。

④「事故類型」(S列)のフィルターで、「1」(人対車両)を選択し、最上行から最下行の全てのセルを、「1」→「人対車両」に書き換える。

⑥「事故類型」(S列)、「事故内容」(T列)で、フィルターをクリアする。

⑤(④)と同様に、「事故類型」(S列)で、「21」→「車両相互」、「41」→「車両単独」に、「事故内容」(T列)で、「1」→「死亡」、「2」→「負傷」に書き換える。

⑦地図表示用ファイルを出力し(P.11参照)、地理院地図に地図表示用ファイルを読み込ませる(P.12参照)。

【応用編】項目情報をポップアップで地図に表示（2）

交通事故発生箇所をクリックすると、項目情報がポップアップで表示されます。

①2023年の東京都千代田区の交通事故が、赤い×印で表示される。

②赤い×印をクリックする。

飯田橋駅前の交差点で発生した事故の1つが、「人対車両」「負傷」であることがわかる。

③項目情報がポップアップで表示される

事故類型	人対車両
事故内容	負傷

作図・ファイル

- 新規作図情報 0 編集 削除
- アイコンのラベルを表示 大 中 小
- gsimap20250704160337.kml 655 編集 削除
- アイコンのラベルを表示 大 中 小

標高（全国標高改定以前の値）：19.6m（データソース：DEM5A）

表示値の説明